

議 事 錄

件 名	第32回自殺予防対策委員会
日 時	令和7年10月20日(月) 14:00~15:20
場 所	久留米市役所 301会議室
出席者	委 員 内村委員長、大治副委員長、熊本委員、稻益委員、棚町委員、漆原委員、時安委員、岡村委員、田中委員、乙丸委員、関委員
	事務局 山下主幹(安全安心推進課) 田原主幹、伊藤補佐、上野主査、池田(保健予防課)
欠 席 者	井上委員、石井委員、下川委員、倉富委員
傍 聴 者	無し
次 第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 協議事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 次期国際認証に対するアンケート結果について (2) みんなでセーフコミュニティ賞について 3. その他 <ol style="list-style-type: none"> (1) 令和7年度セーフコミュニティ会議等スケジュール(案) (2) 自殺対策に関する意見交換 4. 閉会
質 疑	<p>1. 開会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局より開会 ・傍聴者の確認「なし」 <p>2. 協議事項</p> <p>(1) 次期国際認証に対するアンケート結果について</p> <p>委 員 ① 7ページの自由記述欄にある「赤ちゃんふれあい出前サロン」を現在8地区で行っているが、自殺対策に効果があると感じている。赤ちゃんを育てる保護者の方に了承を得て、中学生を対象に行うもの。今まで母親と全然話したことがなかったという子が、子育ての大変さを感じられた、抱っこするうちに命の尊さを感じたと言い、母親と話をするようになったという声を聞いた。</p> <p>委 員 ② まちづくり振興会が小学校と隣接していて子どもたちとの関わりが多い。悩み事があったら相談においてと孤立・孤独にさせないこと、寺子屋のような役割をもっと増やしていきたい。</p> <p>委 員 ③ 委員として4年目になり、久留米市自殺対策計画推進委員会にも参加している。セーフコミュニティと両方参加している中で、ある程度目標を持ってやっていることは非常に大事だと思っている。しかしセーフコミュニティを市民の方がどれだけ知っているのか、市民の声をもっと聴いたり、アピールする必要があるのでないかと考えている。</p> <p>委 員 長 セーフコミュニティの認知度はどうなっているか。</p>

安全安心課事務局	平成 23 年度は約半数が認知していたが、令和 3 年度の結果では 23% しか認知していない。事務局としても認知度向上のために、ホームページ、LINE、インスタグラムを活用して、啓発活動を広めるように取り組んできた。今年度再度市民意識調査の質問項目には入れているが、まだ結果は出ていない。
委 員 ④	2 ページの取り組んできた成果は何かと考えたとき、「予防の重要性を市民に伝えることができ、市民の安全安心の取組が向上した」というところかと感じた。以前高齢者の安全対策委員会に所属しており、高齢者の転倒について、家電のコンセントにつまずいたなどの原因を載せたリーフレットをお配りした。セーフコミュニティの考え方や取組みはとても大事だと思う。ただセーフコミュニティがないとだめなのかという答えが見いだせない。このような連携や安全安心を守る枠組みがいるとは思うが、国際認証を受けることについては正直どちらがいいのかははっきり答えられない。
委 員 ⑤	国際認証が必ずしも必要なのかというところは少し疑問が残る。ただセーフコミュニティの取組みによって、久留米市全体で小さな安全安心を築き上げていくことは非常に重要だと考えている。国際認証とセーフコミュニティの取組みの関わりについて具体的に示せたらいいのではないか。
委 員 ⑥	今回初めて委員になったので、国際認証の経験はないが、労力と経費がかかるという部分でどうなのかと思う部分はある。先ほども市民の認知度がどんどん低くなっているという話だった。日本で久留米市以外にも国際認証をとっている自治体はどのくらいあるのか。
安全安心課事務局	国際認証を取得したことがある自治体数は 17 自治体で、現在継続しているのは 11 自治体。1700 ほどある自治体の中で 17 自治体、さらには継続している自治体も減ってきてている。福岡県では久留米市のみ。九州では鹿児島市。関東・関西の自治体にやや多い。久留米市は全国で 9 番目に取得した。
委 員 ⑦	前の職場から関わって 5 年目になる。取組みそのものはデータに基づいた部分であり、久留米市では高齢者の転倒が多いという結果だった。そういうデータを出前講座の中に取り入れたりしていたため、取組みそのものは非常に有効だと実感している。私どもの相談の中にも依存症の相談があり、皆様と協議・連携することで少しでも依存から抜け出したい、自殺を予防する水際のところにいると感じる。ただ国際認証については多大な労力があり、それを続けていかないと取組みがなくなるのかというところで少し考えていく必要があるかと思う。
委 員 ⑧	委員になって 2 年目となるが、この委員会以外にも高齢者の安全対策委員会と防犯対策委員会で委員をさせてもらっている。各部門の方々の意見を聞いて、非常

	に勉強になっている。ただ課題としては、市民の方に対するアピール・浸透が足りないのではないか、セーフコミュニティがないといろんな活動ができないのかというのが、はっきりわからないところがある。
委 員 ⑨	第1回の認証のときから関わっている。転倒予防のリーフレットを啓発で使わせていただいたりと、効果的だったと思う。セーフコミュニティでは年々データを積み上げていっており、安全安心の向上に寄与しているということはデータとして出ていると思う。ただ知っている市民が少ないので、全国でも11自治体に過ぎないというところが少し弱いのかもしれない。あるいは、全国的にみると少ないところを敢えて取り組んで、一定の成果を上げていている、というところをアピールしてもよいかもしれない。アンケートそのものについてはフラットな形で書いているが、事務局が継続するという回答が55%は決して高くないという一つの評価が示されているのが、やはり厳しいのかなと感じた。
副 委 員 長	自殺対策は何重にも取り組んでいるので、セーフコミュニティとしても取り組みやすい項目であると思う。久留米市民の認知度を上げるために精を出すよりは、10年後の久留米市民の人口動態を予想すると非常に厳しいため、外部からの移住者を獲得する目的のために安全安心な街だということをアピールしていくことが大切だと思う。内部よりも外部にアピールして、これだけ住みやすいから移住してくださいと伝えていかないと。取組みそのものはよいが、その使い方が大事。国際認証をとるなら、うまい施策の中に落とし込んでやっていくのがよいと思う。
委 員 長	セーフコミュニティの取組みが久留米市の安全安心に貢献しているというのは一致した意見だったと思う。国際認証をとるかどうかはメリット・デメリットがあるので、どうしていくかは皆様少しずつ意見が異なったのだと思う。市民だけではなく、外部に向けてよりアピールしたらどうかというもっともな意見も出たため、今回の意見をもとに今後検討してほしい。
<u>(2) みんなでセーフコミュニティ賞について</u>	
安全安心課事務局	自殺予防対策委員会からは推薦はなかった。今後は他市における表彰制度も情報提供しながら、皆様が推薦しやすいようにしていきたいと思う。 12月20日（土）本庁舎2階のくるみホールで表彰式を行う。 今年度からの取組みで、現在4団体と個人1名が候補として挙がっている。対策委員会毎に3団体までとしていたが予想より推薦は少なかった。来年も実施予定だが、方法については検討したい。
委 員 長	来年度はぜひ推薦していけたらよい。

	<p><u>3. その他</u></p> <p><u>(1) 令和7年度セーフコミュニティ会議等スケジュール（案）</u></p> <p>特になし</p>
	<p><u>(2) 自殺対策に関する意見交換</u></p> <p>事務局より久留米市の自殺の現状を説明</p>
委 員 ①	推移をみていると令和4年から自殺者が減っていない。久留米市としてはどう受けとめているか。自殺した人がどのような状況におかれていたのかなど詳しい状況は分析しているか。具体的に示してもらえば対策の仕様があると思うが。
事 務 局	私どももこの現状は重く受け止めている。原因・動機をみると、健康問題が最も多くなっている。別に厚労省の特別集計という形で報告があるが、このような特徴があると一言で申し上げるのは難しい。自殺未遂をした方は、救急や警察の方の協力をいただきながら、保健所に相談できるというカードを周知いただいたり、ご遺族の方へは自死遺族の「わかち合いの会」についてご案内いただいている。セーフコミュニティの考え方の通り、市民の方や関係機関との協働によって一人でも多くの命を救っていきたいと考えている。また自殺者数だけでなく、自殺未遂者やご遺族などの声も聞きながら、今後の取組みに活かしていきたいと思っている。
委 員 長	全国的には子どもの自殺が多いと言われているが、久留米市はそれほど多くない。また女性の自殺も多くない。
委 員 ①	自殺する人の中には、親が悪いとか、友達が悪いとか、そう言えない人が追い込まれてしてしまうのではないかと思う。そういう原因をまず掘り下げていかないと、自殺者は減らないと思う。
委 員 ②	自殺というのは何回も繰り返すこともあるため、自殺未遂をした方をどうケアするかが大事だと思う。
委 員 ③	自殺未遂者については、救急現場も限られているが、できる限りの情報を医療機関に伝えてつなげるということはやっている。しかし、男性は既遂が多いというのが課題だと考えている。
委 員 ④	労政課では働きやすい職場づくりが取組みの主旨。ただ、労働分野は国や県の権限が多いため、広く知っていただくということが市の取組みかと思う。原因・動機別での勤務問題や健康問題も勤務上のものからということがあるかと思うので

	勤務問題から生じる最終的な部分が自殺ということも関連付けて、より関係機関との連携を図っていかなければならない。
委 員 長	自殺の原因が健康問題、特にうつ病が多くなっているが、その原因としては勤務問題の中で、残業や人間関係などで自殺される方も多い。働き方改革やストレスチェックが50人未満のところでも義務付けられるので、勤務上の対応が必要になってくると思われる。
委 員 ②	ハラスメントも非常に大きな原因かと思う。ハラスメントをなくす取組みが必要。
委 員 長	ハラスメントも人間関係が大きい。ハラスメントをなくすことも大事だが、起きた場合にどうサポートしていくかということも重要ではないかと思う。
委 員 ⑤	当課では生活困窮の方の相談を受けるが、相談につながっているだけいいと感じている。「死にたい」「死ぬしかない」と直前まで来ている方について、健康上苦しい・痛みから逃れたいという方と、希死念慮がある方の対応は違うと考えていて、その対応について悩んでいる。自殺予防というところでいい声かけができるようになりたいと思っている。
委 員 ⑥	当課では妊娠期から子育て期まで切れ目ない支援を行っている。妊娠期から保健師や助産師がサポートをしている。子育て世帯の孤立化や支援者不足、地域との関係の希薄化が言われているが、赤ちゃん訪問の際に主任児童委員と連携させてもらい、行政だけでなく地域の力も借りながらサポートさせてもらっている。
委 員 ⑦	R4年からR6年の間で原因・動機別の傾向はあるか。
事 務 局	経済・生活問題、勤務問題が増加している。
委 員 ⑦	男性の自殺が多いという点では、経済問題が大きいのではないかと思う。当センターも経済問題での相談が多く、すべてに対応できないため専門的な機関を紹介することもある。生活困窮など男女関わらずかかってくるが、経済面は男性が多い印象であるため、男性に特化した取組みも検討していいのではないかと思う。
委 員 長	男性の相談窓口として図書館を使っていると思うが。
事 務 局	こころの相談カフェは、男性に特化したものではないが、仕事終わりの夕方や休日に男性も利用しやすいように工夫している。
委 員 ⑧	警察で取り扱うものでは、健康問題が一番多く、次が生活問題かと感じている。遺書や自殺未遂の方からわかるもの。自殺未遂をした方に関しては、関係機関の方へ情報提供して対応している。

	今年の自殺の状況がわかれれば教えていただきたい。
事務局	8月末まででは、男性が29名、女性が7名、計36名となっている。
委員長	女性は減っている。しかし総数が変わらなければ、やはり男性の自殺が多いかもしれない。
委員⑨	コロナ以降変わってきたのが、「明日食べるものがない」「今月電気が止まる」など生活困窮の方がだんだん見えてきた。18歳までの子どもをもつ生活困窮家庭に、春夏冬の長期休暇前に相談会をしている。事前申込をとり、ロータリークラブやJA、フランソアなどに協力してもらい、お米やパンを差し上げている。我々が悩んでいるのが、もっと数がいるはずだが、どこにもつながっていない、もう死ぬしかないという方がいないかということ。民生委員などに気になる方がいたら情報をお伝えもらうよう依頼している。少しずつ口コミで広がればいいと思うが。これまで3回やってきたが、毎回50~60世帯来ている。もし各機関で情報を伝えたいと思う方がいたら教えてほしい。
副委員長	久留米医師会でも自殺未遂の方は紹介されるが、ほとんどが女性。女性の自殺者数が増えていないのは、未遂者支援の一定の効果が出ていると考えていいのではないか。ところが男性の自殺未遂者はほとんど紹介されず、労務環境、物価高、給料の影響が一番大きいと感じる。男女共用のトイレでは女性向けのカードはたくさんあるが、男性向けのカードは一つだけ。「男性は誰も持って行かないから」と言うが、男性はそこへの興味が向かずに亡くなってしまう、心の困った部分に気づかない。女性は自殺未遂というきっかけがあって取り組みやすいが、男性に対する啓発をしていかないと、本質的な数字は下がらないだろう。男性の意識を変えていかないと、自殺者を減らすことは難しい。40~50代の男性が亡くなっているが、もっと若い世代が悩みを近くの人に話せるような教育から取り組んでいかないと、根本的な部分には結びつかない。男性、女性の違いを理解した上で、深めていかないといけない。
委員長	久留米市の場合は、今年も女性は減ってきていて、男性が多いというのが一つの特徴だと思う。女性が減ってきたのは、未遂者支援が比較的うまくいっていること、こども子育てサポートセンターが早くから立ち上がり、妊娠出産する女性や子どもへの対応が、産後うつや子どもの自殺の予防につながっていると感じる。働き盛りの男性、愚痴をこぼしづらい・相談しづらい男性をどう救っていくか。先ほど赤ちゃんふれあい出前サロンの話もあったが、やはり小中学校から命の大切さを教育していくことも大事だろうと思う。福岡県の薬物依存対策では小学校

から薬剤師が入って教育している。子どもの頃から命を大切に、家族で支え合つてということを教育していくことが大切だと、皆様の意見から考えた。今後も皆様とともにに対応していき、少しでも久留米市から自殺が減っていけばと思いますのでどうぞよろしくお願ひします。

4. 閉会